

目黒稲門会会報



(題字：真仁田 勉 初代会長)

第34号 2007年3月

発行人：加藤 栄護 編集長：外岡 明 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

2007年 新年会 盛大に開催

2007年1月8日(月、成人の日)にこまばエミナースにおいて目黒稲門会新年会が盛大に開催された。参加者は来賓を含めて75名となり、にぎにぎしく且つ和気藹々の新年会となった。

第一部は中上美代子幹事の司会により、まず加藤栄護会長の新年の挨拶があり、目黒稲門会は8年になるが極めて元気な高齢者先輩に恵まれ、皆さんと共に今年も元気に活動して行きたい。本日の講演会の講師奥島孝康早稲田大学前総長は、早大の革マル派を撃破してまともな大学に育て上げられた。また先生は、地方文化重視の観点から早大のあるべき姿を構想し、グローバルとローカルを結び合わせたグローカル・ユニバーシティを提唱指向された。我々もこれに賛同し推進する必要があると思っているとの話があった。

次いで奥島前総長の経歴、著書等の紹介のあと、「早稲田人の心の原点“都の西北”」との演題で、心の原点が何処にあるのかについて極めて興味のある感銘深いお話を頂いた。次ページに抜粋を纏めたのでご参照下さい。

第二部懇親会は石川智子幹事の司会により進められた。まず、早稲田大学125周年記念事業募金局課長・広瀬 剛氏より挨拶を頂いた。愈々125周年記念の年を迎え、募金は130億円を突破した。4月に銘板の記録は一旦締切るが、引続き絶大な協力をお願いしたいとのことであった。

次に、青木英二目黒区長より、稲門会の皆様には区政で大変お世話になっている。住み続けたい目黒区作りに引続きご協力願いたいとの挨拶があった。

ここで、松岡雅敏幹事のハンカチ王子にまつわる野球部の話や祝辞に続き、乾杯の発声により懇親会に入った。歓談が続く中、土川俊雄副幹事長が各テーブルを巡回し初参加の会員8名の方々を紹介し、ひとことご挨拶を頂いた。同時に石川智子幹事が角帽を持って各テーブルを巡回し、125周年記念募金への協力を依頼して回り、集まった寄付金に会資金より若干の補

填をして15万円とし、広瀬募金局課長に贈呈した。

次いで、海口昭治カラオケ部会長が登壇。先ず奥島前総長にお願いして「人生劇場」の歌と口上を熱演して頂き、大喝采を博した。続いて加藤会長の「火の国旅情」、青木区長の「新潟ブルース」、田畑 繁会員の「群青」、松岡幹事の「花と龍」、荒瀬修一郎相談役の「影を慕いて」が熱唱され、最高に盛り上がったところで恒例の伏見和則会員のリードで全員肩を組み校歌を斉唱し、八幡和三郎副会長の中締め挨拶をもって盛會裡に閉会となった。



出席者 (五十音順 敬称略)

(来賓) 青木英二、奥島孝康、広瀬 剛

(会員) 浅海敏之、芦沢哲男、阿部喜久雄、有山勇次郎、荒瀬修一郎・令嬢、安藤嘉昭、石川智子・家族・友人2、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤源喜、伊藤 悠、井村正陽、岩佐好恭、岩崎正夫、鶴野洋治、海口昭治、大竹一子、大野利幸夫妻、小野 満、海沼美智子、加藤栄護夫妻、川井信義、川崎真樹子、紀本直幸、桑野祐光、郡山弘文、小杉 哲、後藤克彦、桜井輝隆・友人、島田久家、嶋田勝彦、杉山 弘、鈴木 徹、関 和平、高橋圭吾、田島順一郎、田畑 繁、千野逸平、土川俊雄、手塚仁雄、外岡 明夫妻、永井純一郎、中上美代子、長島清志、服部尚彦、林田雅敏夫妻、樋口定廣、樋口俊彦、平沢榮夫、伏見和則、松岡雅俊夫妻、松田哲也、水野弘文、村上 満、森家一三、保井 正夫妻、八幡和三郎、横山 大、吉田博行、渡辺三郎夫妻

奥島前総長の講演抜粋

(早稲田人の心の原点「都の西北」)

①大隈さんがあらゆる意味での原点であることはご存知の通り。大隈さんが亡くなった時早稲田の有名な歌人窪田空穂先生が詠まれた句をご存知と思う。「君なくば早稲田大学なかりけん。大学なくば吾ここに居らじ」。ここに居られる皆様は大体そうではないかと思う。私など正にそうである。この早稲田大学の心と言うものは何であるかを考えた時思い出すのは、いくつかの早稲田大学を作り上げる切っ掛けになったものである。一つは大隈さんの生き方、一つは早稲田大学に魂を吹き込んだと言われている小野 梓先生の生き方、もう一つはその二人の志を受け継いで今日の早稲田を作り上げた経営能力をお持ちの高田早苗先生と言うことになる。この三人の考え方を合わせれば早稲田大学の心の原点が見えて来る。

②大隈さんは大変な勉強家、藩学から蘭学を学んだが、世界は英米が動かししているのに気づき英学の勉強を始めた。折しもアメリカから三人の宣教師が来た。その内の一人フルベッキと公立学校「致遠館」を作った。早稲田大学にこの名を使いたかった。

③後に政府高官になり、大隈さんが中心になって今の東京大学を作り、フルベッキを教頭に呼んだ。またもう一人の宣教師ウイリアムは後に立教大学を作ったが、大隈さんは彼から沢山学んだので余は立教大学の卒業生であるとも言った。早稲田大学と立教大学、学習院大学、日本女子大学でフリーキャンパス、学習院女子大学を入れてファイブキャンパス、歩いて行ける範囲にあるのでエフキャンパス(フットキャンパス)と称し昔の縁を取戻しつつある。また大隈さんは日本女子大学の創立委員長でもあった。それから同志社が大学に昇格の際求められた寄付金の大部分を大隈さんが集めたことから大変親しい関係にある。また同志社は早稲田大学初期の頃沢山の人材を派遣してくれた。昔からの親戚である。

④明治14年の政変で野に下ったが、近代化を担う「下から支える優秀な活動家」が必要ということで翌年東京専門学校を作った。大隈さんを慕って東京大学出身の優秀な人材が、安月給をいとわず集まり、今日の基礎を築いた。大隈さんの貧しい人を身をもって救えとの心情を理解した学生が集まった。

⑤当てこすった言い方で「早稲田が耕し、慶応が種まき、東大が刈り取る」と言われ腹が立ったが、決して悪いことではない。早稲田の人間は世のため人のために汗をかき涙を流すという生き方をして行かなければならない。大隈さんは早稲田大学にそういうところを最も期待したのではないか。大学のアイデンティティはこれで良い。

⑥他方反発し合っていた慶応大学の福沢さんと明治6～7年に会って意気投合し、明治14年政変の後大隈さんの求めに応じ自分の処で育った優秀な人を10人近く送った。尾崎行雄、犬養 毅もいた。小野 梓先生を中心に立憲改進黨を作った。

⑦大隈さんは新政府に与えられた人材だけではどうにもならないとして、徳川幕府の中から後に日本資本主義の父と言われた渋沢栄一や、通信制度、郵便制度を作った前島 密をはじめ多くの人を登用した。出身や出身地にこだわらず、志が高かった。

⑧民生面でも社会の中で虐げられた人達を日本の近代化のために参加させる手を打った。大隈さんの当時の雉子橋(今の飯田橋)の家の中に大隈大明神と言われて賽銭が投げ込まれた。

⑨人材以外では早稲田が持っていた報知新聞がある。明治以来の伝統ある新聞であるが残念ながら今は読売新聞傘下のスポーツ新聞になり下がっている。

⑩笠 智衆さんが書いたが「イギリス人は歩きながら考える(経験主義)。ドイツ人は考えた後走り出す(観念主義)」。私は早稲田大学の在り方は経験主義(行動派)でなければならないと思う。自分で汗を流す人を育てることを大隈さんをはじめ最初に早稲田を作った人達は身をもって示されたのではないか。それがまた早稲田大学の伝統でなければならないし、心の原点でなければならない。

(島田 記)

新年会初参加の会員等



写真 右から

岩佐 好恭氏(昭和34年法)

鈴木 徹氏(平成11年理工)

後藤 克彦氏(昭和42年文)

樋口 俊彦氏(昭和40年文)

鶴野 洋治氏(昭和39年商)

嶋田 勝彦氏(昭和41年法)

川崎真樹子氏(昭和50年法)

安藤 嘉昭氏(昭和42年法)

○渡辺 剛氏(平成8年文)

○大山 妙子氏(平成18年理工・院)

(○印のお二人は石川智子幹事のご友人)

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第33号 2006年12月

発行人：加藤 栄護 編集長：外岡 明 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

2007年 新年会開催のご案内

2007年度新年会を1月8日(月・祝)に「こまばエミナース」において下記の通り開催します。

恒例の第一部講演会では、今回は奥島孝康前早稲田大学総長をお招きして、新春に相応しいご高説を拝聴することと致しました。ご家族を含めて多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

なお、奥島前総長よりは、『早稲田人の心の原点「都の西北」』と題して母校や校歌にまつわる興味深いお話が伺えるものと期待されます。これまで会費を負担されながら何れの会合にも出席されなかった会員の皆様には、或は久し振りに心の琴線に触れる様な母校の話が伺えるものと思います。是非お気軽にお出掛け下さい。

日時 2007年1月8日(月・祝)

受付開始 15時30分

講演会 16時～17時

講師 奥島孝康氏

演題 早稲田人の心の原点「都の西北」

懇親会 17時～19時

会場 こまばエミナース

目黒区大橋2-19-5

電話 03-3485-1411(代)

井の頭線 駒場東大駅

(下北沢寄り改札口 徒歩7分)

会費 8,000円(同伴家族5,000円)

(当日会場受付にてお支払い下さい。)

☆当日送迎バス(こまばエミナースのマイクロバス)を運行致しますのでご利用下さい。

①目黒駅付近 15時10分発

(目黒通りみずほ銀行前付近)

②中目黒駅付近 15時20分発

(山手通り・ツタヤ前付近)

☆同封の返信用葉書を12月10日までにご返送下さい。なお、送迎バスご利用の方は葉書に利用番号(①又は②)を明記して下さい。



講師のプロフィール

奥島 孝康氏

前早稲田大学総長。

昭和14年(1939)生まれ。

昭和38年(1963)早稲田大学第一法学部卒。

昭和51年(1976)同上法学部教授。同年法学博士。

同年より3年間パリ大学交換研究員。

昭和56年(1981)以降 教務部長、図書館長
法学部長歴任。

平成6年(1994)早稲田大学第14代総長。

その他 世界各地の大学の名誉博士号多数、中国人民大学、復旦大学及び清華大学各名誉教授。日仏法学会理事、日中法学会理事長、日本私立大学連盟会長ほか会長、理事長職多数。文部科学省中央教育審議会委員等。

著書 「現代会社法における支配と参加」「フランス企業法の理論と動態」「現代企業法の理論と動態」「私の大学論」「進取の精神」ほか著作、論文等多数。

(島田 記)